

## 2021 年度前期・神戸大学全学共通外国語科目における 成績評価方法に関するアンケート：集計・分析結果報告書

神戸大学 大学教育推進機構 国際コミュニケーションセンター システム研究部門

### 目次

はじめに .....	2
第 1 部：分析結果 .....	3
0. 総論 .....	3
1. リアルタイム（オンライン）方式 .....	6
2. 課題提出方式 .....	7
3. 教室で実施 .....	8
4. 平常点で成績評価 .....	9
5. その他の質問 .....	10
第 2 部：集計結果 .....	11
1-1 期末試験はリアルタイム（オンライン）方式で実施（英語） .....	11
1-2 期末試験はリアルタイム（オンライン）方式で実施（未修外国語） .....	12
2-1 期末試験は課題提出方式で実施（英語） .....	15
2-2 期末試験は課題提出方式で実施（未修外国語） .....	16
3-1 期末試験は教室で実施（英語） .....	17
3-2 期末試験は教室で実施（未修外国語） .....	18
4-1 期末試験は実施しない（英語） .....	18
4-2 期末試験は実施しない（未修外国語） .....	20
5-1 その他の意見・質問（英語） .....	20
5-2 その他の意見・質問（未修外国語） .....	21
補遺：アンケート質問文一覧 .....	23

## はじめに

神戸大学全学共通教育の外国語科目の担当教員を対象として、2021 年度前期（1Q・2Q）の成績評価方法に関するアンケートを、成績入力期間が終わった 9 月の間に実施し、69 名の方々から回答をいただきました。ご多忙な中、また各自の研究や後期の授業準備に時間を割くべき貴重な夏季休業期間中にも関わらず、本アンケートにご協力くださったことに厚くお礼申し上げます。

我々、国際コミュニケーションセンター・システム研究部門一同では、昨年度にも『2020 年度神戸大学全学共通教育におけるオンラインによる外国語教育の実施状況に関する報告』を作成・発行しましたが、その際には授業運営方法に関する内容が中心となり、期末試験や成績評価については十分な検討がなされていませんでした。そこで、本報告書では昨年度の報告を補完すべく、オンラインによる授業環境における期末テストの実施方法を中心としたアンケート集計結果と、我々システム研究部門一同による分析を記載しますので、成績評価を中心とした今後の外国語科目運営にお役立ていただければ幸いです。

集計結果ならびに分析は、まず、表とグラフを用いた総論を置き、その後に「1. リアルタイム（オンライン）方式」「2. 課題提出方式」「3. 教室での試験実施」「4. 平常点による成績評価」の順で、それぞれの成績評価方法ごとの分析結果を記載してあります。1Qと2Qとで評価方法が違う場合、または複数の評価方法を組み合わせている場合は、アンケートの記入内容をもとに最も関連が強いと思われる評価方法の中に含めさせていただきました。また、5 番目の項目として、アンケート項目「遠隔授業下での試験の実施や成績評価の方法について、何か困っておられる点や部会等へのご要望・ご質問等がございましたらお書きください。」の自由記述の内容に関して、現時点で返答可能な範囲での回答を記載してあります。

アンケートの集計結果そのものは、本報告書の後半に、上記に挙げた項目ごとに掲載してあります。集計結果は回答してくださった教員ごとに匿名で区分し、以下の規則にもとづいてナンバリングしてあります。

### ナンバリング「A—B—C」の規則

A：「1. リアルタイム（オンライン）方式」「2. 課題提出方式」「3. 教室での試験実施」「4. 平常点による成績評価」「5. その他の質問など」
B：「1. 外国語教育第一部会（英語）」「2. 外国語教育第二部会（未修外国語）」
C：（それぞれの区分の中で科目ごとにまとめて 1 から順に番号を付けている。）

また、本報告書の末尾には、実際におこなわれたアンケートの日本語版・英語版を付してあります。各アンケート項目の詳細を確認する際にご利用ください。

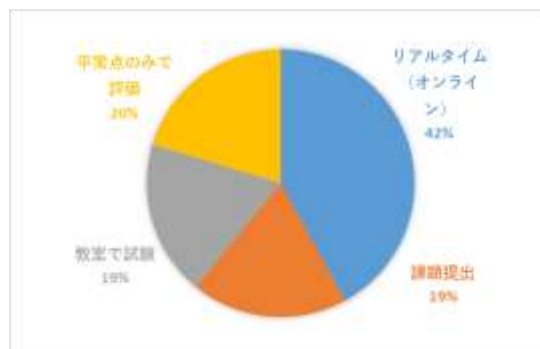
## 第 1 部：分析結果

### 0. 総論

69 名のアンケート回答を、試験の実施方法別におおきく分けると、「リアルタイム（オンライン）」「課題提出」「教室で実施」「平常点のみで評価」という 4 グループに分類できる。1 Q と 2 Q で実施方法が異なる場合、複数の実施方法を組み合わせている場合には、回答内容から、特に関連が深いと思われるグループに振り分けてある。その集計結果は、次の表 1 の通りである。

表 1

	回答数
リアルタイム（オンライン）	29
課題提出	13
教室で試験を実施	13
平常点のみで評価	14
総計	69



リアルタイム（オンライン）方式での実施が、全体の半数近くの 29 件に上り、のこりの 3 つの形式はその半以下以下の 13 ないし 14 件でほぼ同数となっている。英語・第二外国語ともに、会話や発音を評価する上でリアルタイムでの試験は重要であることは明らかであり、教室での発生が困難な状況下において、リアルタイム方式の件数が多くなることは当然と考えられる。

続いて、各グループごとに、【設問 5】（お答えいただいた期末試験の実施方法はうまくいったでしょうか。5 段階で評価してください。）について、アンケート結果を確認しておく。

表 2

	1	2	3	4	5	未回答	総計
リアルタイム	-	1	5	12	11	-	29
課題提出	-	-	4	6	3	-	13
教室	-	-	1	5	7	-	13
平常点	-	-	3	6	3	2	14
総計	0	1	13	29	24	2	69

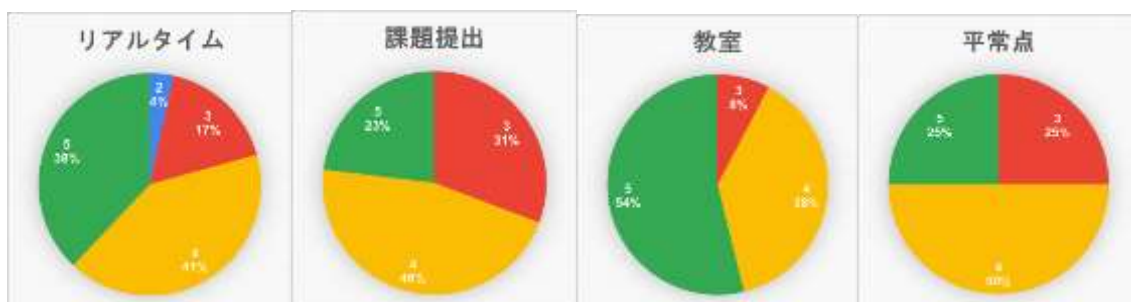


表2のように、リアルタイム方式において2点が1件あるものの、それ以外は4点・5点が多く、どの実施形式を採ったにせよ、各教員の努力により十分な成果を得ることができたように思われる。ただし、3点の評価も教室での実施を除く3グループにおいては少なくなく、どのような問題があったのか、どのような改善方法が考えられるのかを、以降の各論において検討する必要があるだろう。

最後に、通常時の授業における期末試験の成績評価に占める割合と、コロナ禍の影響を受けた今年度前期での割合とにどの程度変化があったのかを確認しておきたい。

まず、例年通りの場合については、【設問8】(成績評価に占める期末試験の割合についてお尋ねします。コロナ対応の必要がない例年通りの授業であった場合、期末試験の得点は成績評価全体の約何割を占めていますか?)の結果を集計したところ、下記の表3の結果を得た。表における1行目の0から10までの数字は、成績評価全体に占める期末試験の割合(0割から10割)を示している。

表3 (問8. 例年通りの場合)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
リアルタイム		1		3	2	7	9	3	2		
課題提出		2	1	2	2	2	2	3	1		
教室で実施		1				4	4	3	1		
平常点	1	4		2	2	3	1	1			
総計	1	8	1	7	6	16	16	10	4		

それに対して、コロナ禍の影響を受けた2021年度前期については、【設問9】(今年度前期(1Q/2Q)の成績評価において、期末試験の得点は全体の約何割を占めていますか?)の結果を集計し、下記の表4の結果を得た。

表4 (設問9. 今年度前期の場合)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
リアルタイム			2	2	6	7	7	1	1	1	
課題提出			2	2	3	1	3	4			
教室で実施				1		4	3	4	1		
平常点	1	7		1	1	2	1	1			
総計	1	9	4	7	8	16	15	6	2	1	

通常時との違いを調べるために、各回答者ごとに【設問9】の値から【設問8】の値を引き、通常時と比較した今年度前期の成績評価における期末試験の割合の増減を調査した。その結果が次の表5のとおりである。

表5（例年と比較した今年度前期の成績評価における期末試験の割合の増減）

	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4
リアルタイム		1	3	5	16	1			1
課題提出		1	4	1	8	1			
教室で実施					11	1	1		
平常点	1	1	1		11				
総計	1	3	8	6	46	3	1		1

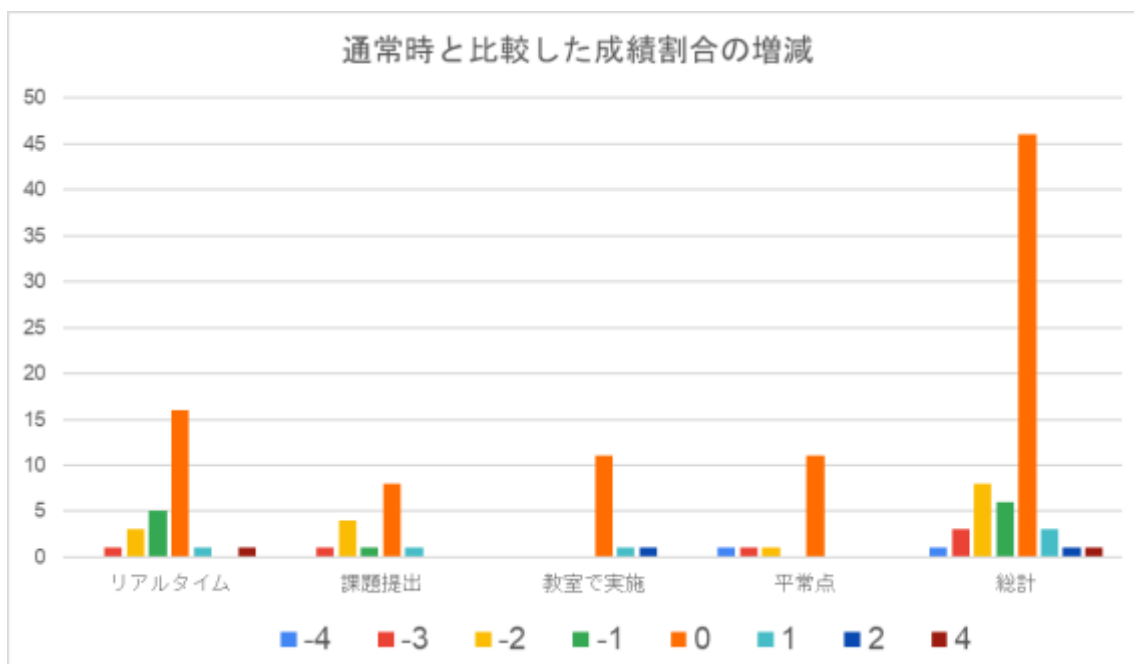


表5を視覚化した上記のグラフにおいて、各グループにおけるオレンジ色が増減0を示しており、それより左側の緑色、黄色、赤色、青色は通常時よりも成績評価における期末試験の割合が減少した件数、オレンジ色よりも右側に位置する水色、紺色、茶色は、通常時よりも割合が増加した件数を示している。どのグループにおいても、オレンジ色の増減0が最も多く、成績評価に期末試験が占める割合は、コロナ禍の影響をさほど受けていなかったといえる。しかしながら、特にリアルタイム方式と課題提出方式において、若干、通常時よりも期末試験が占める割合が減少している件数も見られる。

さらに詳しい分析については、次ページ以降、「1. リアルタイム方式」「2. 課題提出方式」「3. 教室での実施」「4. 平常点で成績評価」の4グループごとに見ていくことにしたい。

## 1. リアルタイム（オンライン）方式

### ○分析・考察

アンケート回答者 69 名のうち、もっとも多い 29 名（42%）がリアルタイム（オンライン）方式で期末試験を実施している。

リアルタイム形式を選んだ場合に想定される問題点として、学生が電子辞書や自動翻訳ツールを使っていないか確認するのが難しいという点がある。「オンラインということで機械翻訳などを利用して極端に成績が良い学生が現れるかと思った」（[1-2-1]）、「For written work, it is also possible to use translation software such as DeepL.」（[1-2-13]）、「オンラインなので、電子辞書やネット翻訳ソフトの利用の有無は分かりません」（[1-2-15]）。

その対策の一つとして、辞書などの持ち込みを可とした試験が多かったようである。「普段は辞書などの持ち込みを認めないが、オンラインということで監視することが困難であるから、辞書・ノート・教科書を参照可にした。」（[1-2-1]）「オンラインでは持ち込み不可にすることが不可能なので、調べながら取り組んでもいい課題にしました」（[1-2-10]）。

そのように持ち込み可とした場合、成績に差が出にくいいため、「Because of distance learning I had to allow access to the textbook. Because of this I reduced the time of the tests.」（[1-1-4]）、「(カンニングができないようにする) time-controlled 型試験と即時採点・即時フィードバック」（[1-1-7]）、「リスニング問題でかつ回答の間の時間を短くする」（[1-1-8]）、「制限時間に対して大量の問題を出すことによって、よく勉強をしている学生と、テスト中に教科書を確認しながらなんとか成績を導き出している学生との点数に差をつける」（[1-2-8]）、「課題を zoom で公開し、60 分以内で手書きで回答し、写真撮影して提出する」（[1-2-15]）などの工夫をこらす必要があったようである。ただし、このような試験形式の場合、タイピング速度やパソコン操作の習熟度により「制限時間内にオンラインで回答させることには、公平性という点で無理がある」（[1-1-1]）、「タイピングが遅い学生がおり、回答時間が少なくなった」（[1-2-1]）といった問題が生じることもあるというのが課題として残されている。

また、他の形式として、主にコミュニケーションを中心とした授業においては、グループディスカッションを録画して評価するという方法がとられている。多くの場合、対面での運用よりもオンラインの方がこの種の方式はうまく行ったという報告があがっている。「グループのディスカッション形式だったので、対面よりも時間通りに進行できた。」（[1-1-8]）、「As a result, the final exam in the following week tends to go very smoothly. The only major change is that it is conducted in breakout rooms on Zoom rather than in person.」（[1-1-9]）、「Students had their 3rd and final "free talk" discussion in breakout room groups of 3-4 (we did this end of 1Q and halfway through 2Q). These were recorded and lasted 10 minutes.」（[1-1-10]）、「レポートと期末の発表を併用したから（Zoom の録画を使用）」（[1-2-5]）、「対面時には場所と時間の管理が難しいため実施していなかった会話テストですが、Zoom を使うと少人数グループで実施することができました。」（[1-2-10]）。

他にも、「エッセイライティングとスピーチを組み合わせて評価した」（[1-1-3]）という報告もあり、各教員が授業内容にあわせて様々な工夫をしていたことが窺える。

## 2. 課題提出方式

### ○分析・考察

2021 年度前期、課題提出による期末試験の実施は総計 69 件のうちの 13 件 (18.8%) であり、教室での実施と同数であった。オンラインによるリアルタイムでの実施、教室での実施を含め、何らかの形で試験を行った 55 件の中ではリアルタイム実施の 52.7% に対して 23.6% と、リアルタイム型の半分弱という結果となった。コロナ禍のもと、対面での試験実施は憚られるものの、できるだけそれに近い形での実施を模索する傾向が強かったものと推察する。英語、未修を含め、外国語という科目の性質上、いわゆる「レポート試験」より「筆記試験」という形で学力の獲得程度を計るという従来の一般的なやり方を踏襲する向きが勝っていたようである。

そうした傾向の中、あえて課題提出の形を選択した教員にはそれ相応の積極的な理由が存在した。自由記述を見ると (若干の文言上の変更あり)、「それまでの成績との相関関係が強い、正答率、かかった時間等の重要な統計を分析することができる」([2-1-1])、「オンラインのリアルタイムでの試験と課題提出で迷ったが、新しい言語に慣れていく第 1 歩として、自分で辞書を引いたり、ネットで調べたりといった習慣を身に付けてもらいたいという願い」([2-2-1])、「確実に期末試験に参加してもらえる」([2-2-5]) など、教員側の考慮の跡が窺えた。

一方で、課題の内容にも工夫がなされていた。「記号問題、短い解答の問題をやめた」([2-1-2])、「1Q と 2Q で異なる形式を用いた」([2-1-5])、「発表動画を YouTube に限定公開して URL を提出させた」([2-1-8])、「音声書き取り問題の占める割合を多くし、不正対策をした」(2-2-4)、などである。

自身が選択した試験のパターンがうまくいったかどうかの自己評価を 5 段階で問う設問 (設問 5) では、2 が 1 名いたのを除いては 3 が最低であり、その割合は、「平常点」を含む総数においては 18.8% であるのに対し、課題提出型に限定してみるとそれを上回る 30.0% で 4 パターン中トップであった。一方、最高点の 5 は、全体平均 34.8% に対して 23.0% で、平常点 (21.4%) に次ぐ 3 位で、試験実施グループ中では最低であった。「成績にあまり差がつかない点は困った」([2-1-3])、「動画投稿に抵抗がある学生がいると思われた」([2-1-8])、「対面試験と課題試験の両方を実施した結果、出来不出来に差がある学生があり、評価について考えさせられた・・・問題の質を検討する必要があるように思った」([2-2-2])、「不正対策をしたつもりだったが、学生側は色々な対応があったかもしれない。うまくいったとは自己判断がむつかしかった」([2-2-4])、といった自己評価が参考になる。

通常時と比較した今年度前期における期末試験の割合については、前年度に比べて 1 割減から 1 割増へとまたがっており、「期末テストの割合を下げ、そのほかの課題提出や授業での取り組みの割合を上げた」([2-2-2])、など、試験実施方法を変更したことに伴う評価割合の変更も認められたものの、増減なしの割合が 53% と、他のパターン同様最多であった。遠隔授業導入による試験方法の変更はありえても、いわゆる平常点の根拠となる通常の授業活動の内容とレベルを、基本、対面時と変わらず維持できていることの証左であると考えられる。

### 3. 教室で実施

#### ○分析・考察

2021年度前期は、原則として、コロナ禍においても感染対策をした上で、対面による定期試験を実施してよいこととしており、一定のクラスで対面での定期試験が実施された。本調査では、「教室で試験を実施した」と回答した数および割合は、13件（18.8%）であり、概ね、実際の実施数を反映しているものと思われる。

対面での試験を実施の結果、成績評価がうまくいったかどうかを5段階で評価してもらったところ、5が7件、4が5件、3が1件と概ねうまく評価することができたと感じておられることが分かる。その主な理由は、「例年どおりの対面での定期試験ができた」こと自体に加えて、「パソコンでアクセスできないなどのトラブルが起こらなかった」([3-1-3])といったオンライン実施上の機器・通信トラブルが解消されたことや、「昨年度はオンラインのリアルタイムで試験をしましたが、「持ち込み不可」と伝えたとしても、学生が様々なものを参照したり、クラスメート同士連絡を取り合ったりすることを防げないと思ったため、問題の量を多くしたり、内容を難しくしたりしました。そのように予告した上で行いましたが、そういう試験だと学生もフラストレーションがたまるようで、不満を述べる人がいました」([3-1-4])、「昨年は対面試験ができなかったので秀や優を絞るのが困難だったが、筆記試験を実施して明確に成績分布が判明したから」([3-1-1])といった回答が多く見られ、「期末試験まで遠隔で実施してしまうと、遠隔授業での学習内容がきちんと身につけているかどうか確認することが難しい」([3-2-6])といったオンライン試験実施にかかる問題点が解消されたことが大きいと思われる。

また、期末試験の得点は成績評価全体に占める割合は、対面による定期試験を実施した授業では、占有率は50～80%にまたがっており、定期試験の占める割合を増加させたと回答した件数は13件中2件にとどまり、全体としてはコロナ以前と今年度前期（1Q/2Q）で大きな違いは見られなかった。具体的には、「成績に閉める割合は3割にとどめ、授業の予習に当たる課題、授業の内容を応用する形の作文課題など分散しました」([3-1-2])という場合もあるが、多くは「例年と変わらない形式で実施できた」([3-7-2])ことによって、コロナ以前の成績評価規準を変更することなく成績評価を実施吸うことができたものと思われる。

なお、対面での定期試験を実施した授業の中には、「オンライン受験希望者が数人おり、Zoomを接続しながら、メールで問題と回答をやりとりした」([3-2-1])身近でコロナ陽性者が出た（濃厚接触者ではない）ため念のため自宅待機となった学生やオンライン授業主体で実家に帰省している学生など、対面試験に出席できないケースが出たため、個別に代替手段を取る必要があった（難易度を上げたレポート試験をオンライン上で提出させた）」([3-2-2])など、オンライン試験を併用する場合も生じたようである。これらは、今後、対面授業が中心となった場合でも、一部の学生が遠隔受験を余儀なくされるような状況が生じた場合や、メディアを高度に活用した授業が広く展開されるような場合には、成績評価のための試験などをどのように実施するか、方法及び内容などの面において工夫や改善が必要となる課題である。



## 4. 平常点で成績評価

### ○分析・考察

コロナ禍における 1Q・2Q の成績評価の方法として、平常点での成績評価は 14 件あった。そのうち、評価方法としてうまくいったかを 5 段階で評価してもらくと、5 が 3 件、4 が 6 件、そして 3 が 3 件という結果が得られた（残り 2 件は未回答）。このような結果から、平常点による成績評価においても概ね問題はなかったと考えられる。

平常点での評価方法に関しては、大きく分けて以下の 2 つの方法が取られていると考えられる。一つ目は、授業期間内に毎回、もしくは定期的に学生に課題を課すという方法である。例えば「授業期間中に複数回の作文課題をおこなって成績評価の対象とした。課題はすべてオンライン提出であり、不正（他人の手助けを借りるなど）の可能性はゼロではないが、今回の授業は全体に学生がみな優秀であったので、信頼した」([4-1-1]) のように、クラスの学生のレベルや授業内での教員と学生との信頼関係の程度が関係するものの、作文課題を課す方法がとられている。また、「毎回 BEEF を用いた小テストを行い、期末テストを無し、に変更した。[…] 毎回学習内容により多くの注意を払って予習・復習に取り組んでもらえるよう、学習効果の促進につながることを期待した」([4-1-2]) や「平常点の 1 部として授業の初めに教科書の内容についての課題を提出してもらっていたので、毎回、事前学修をしっかりと授業に参加してくれていたのが良かったと思います」([4-1-5]) 等の意見に見られるように、毎回小規模の課題を課し、成績評価とすることで学生の恒常的な学習にうまくつながるような意見も挙げられた。

また、二つ目としては、試験を課す代替手段として授業期間内に個人またはグループでの発表やプレゼンテーション等を組み入れる方法である。例えば「2 週にわたってグループ発表の時間を取り、聞いている学生には他のグループ発表に関する評価レポートを書かせた。Q2 の方が、学生たちの発表内容も充実しており、熱意が感じられたと思う」([4-1-6]) や、「リアルタイムの遠隔授業中にプレゼンを実施したのがトラブルもなくスムーズだったため。また、そもそも期末試験を実施せずとも成り立つ科目・授業方式であったため」([4-1-7]) という意見そして、「Students created videos (A1 - "How to videos"; A2 - Academic Presentation videos). After students watched each others' videos, discussions were held via ZOOM breakout sessions, which were recorded. Videos were worth 30 points, and Discussions were worth 20 points. 」([4-1-1]) といった意見が挙げられた。二つ目の方法が使用される際には単に学生に発表を課すだけでなく、さらに他の学生の発表に対して学生にフィードバックや評価を行わせたり、学生同士でディスカッションが行われていたことがわかる。学生同士で評価をし合う、もしくは意見交換するというのは、学生にとって通常の筆記試験では経験できないものであり、新たな評価方法として、今後の成績評価の一つの選択肢として浸透することも考えられるだろう。一方で、[4-1-7] にもあるように、授業の内容によっては発表やプレゼンテーションを評価の対象としづらい場合もあり、一概にすべての授業で取り入れることは難しいと考えられる。

また、[5-1-7] にもあるように、プレゼンテーション課題をうまく取り入れることができなかったという意見もあり、今後教員同士が相互に情報交換できる機会があることを期待したい。

## 5. その他の意見・質問

### ○回答

オンラインでの授業および試験実施上の課題として、「不正防止への対応が難しいこと」が共通して浮かび上がってきた。具体的には、次のような意見に代表されるものである。

- ・不正防止対応（なりすまし等の確認）に時間がかかる。また、仮に不正があったとしても遠隔なので、まさにその場で行っている時に対応できない。([5-1-1])
- ・他の学生のレポートのコピペかどうかを判別するソフトがあれば使用したい。([5-1-5])
- ・機械翻訳の精度が上がりすぎて、平常の課題を自力でやらない学生が増えていること。([5-1-8])

最初の 2 点は、全学共通外国語科目にかぎらない大学全体としての課題である。全学教務委員会をはじめ、国際教養教育院でも検討していく必要がある。なお、次のような具体的な対策は参考になるであろう：「不正が行われる可能性をできるだけ低くするために行ったのは、次の項目です。①受験時間に制限を設ける ②問題文は直接打ち込まずに画像ファイルで挿入し、自動翻訳機能が働かないようにする。③出題形式を変えたり、回が進むごとに難易度を上げる。(学生に伝えています)」([5-1-12])。

## 第 2 部：集計結果

## 1-1 期末試験はリアルタイム（オンライン）方式で実施（英語）

<p>[1-1-1] 制限時間内にオンラインで回答させることには、公平性という点で無理があること。そのため、第 2 クォーターは、課題提出方に変更した。</p> <p>A. E. Literacy A1/A2 自己評価 3/5 期末試験 50% &gt; 40%</p>
<p>[1-1-2] BEEF 上でスムーズに問題提示、解答提出ができた。ただし、採点のため一人一人の解答用紙を印刷する手間は生じた。</p> <p>A. E. Literacy A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 80% &gt; 80%</p>
<p>[1-1-3] エッセイライティングとスピーチを組み合わせで評価したので、複数の観点から評価でき、公平性を保てたと思います。【その他の変更点】ライティング課題に口頭発表を加えた点の変更点です。口頭発表があるほうがライティングでよりよいものを書こうとするからモチベーションの向上につながると思い変更しました。</p> <p>A. E. Literacy A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 30% &gt; 30%</p>
<p>[1-1-4] A few students did not attend the Zoom lesson and missed the online test. But I was able to arrange a later online tests for most of the students who did not attend. 【その他の変更点】 Previously the tests were done online but in class without access to the textbook. Because of distance learning I had to allow access to the textbook. Because of this I reduced the time of the tests.</p> <p>A. E. Literacy A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 10% &gt; 10%</p>
<p>[1-1-5] 回答なし</p> <p>A. E. Literacy A1/A2 自己評価 2/5 期末試験 10% &gt; 50%</p>
<p>[1-1-6] 回答なし</p> <p>A. E. Literacy A1/A2 自己評価 3/5 期末試験 60% &gt; 60%</p>
<p>[1-1-7] (カンニングができないようにする) time-controlled 型試験と即時採点・即時フィードバック</p> <p>A. E. Communication A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 50% &gt; 50%</p>
<p>[1-1-8] グループのディスカッション形式だったので、対面よりも時間通りに進行できた。小テストでは日頃からの練習取り組みの度合いが確実に反映されていた。また、採点の時間が短縮された。【その他の変更点】 当該授業はオンライン形式が最初だったので特になし。</p> <p>A. E. Communication A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 50% &gt; 50%</p>
<p>[1-1-8] リスニング問題でかつ回答の間の時間が短いので、カンニングが難しい。その点、オンラインの試験の割には公平な試験ができたと思う。30 名以上いるため、オンライン授業でも試験だけ替え玉で受けられると、本人かどうかの識別は困難。</p> <p>A. E. Communication A1/A2 自己評価 3/5 期末試験 70% &gt; 70%</p>
<p>[1-1-9] In my classes we I always conduct a practice exam with the students the week before so that everyone has a chance to experience the format and upload</p>

<p>process. If there are any problems, students contact me directly and we figure out what went wrong. As a result, the final exam in the following week tends to go very smoothly. 【その他の変更点】 The only major change is that it is conducted in breakout rooms on Zoom rather than in person.</p> <p style="text-align: right;">A. E. Communication A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 40% &gt; 40%</p>
<p>[1-1-10] Students had their 3rd and final "free talk" discussion in breakout room groups of 3-4 (we did this end of 1Q and halfway through 2Q). These were recorded and lasted 10 minutes. Afterwards the videos were uploaded to either FlipGrid or Google Classroom for accountability, and the students used their videos for the other part of the final exam (transcript of their speaking, corrections, etc.) 【その他の変更点】 This was my first time trying this, based on what I learned regarding online learning and communication assessments this past year Covid period from my own readings and from an ed tech conference I attended</p> <p style="text-align: right;">A. E. Communication A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 30% &gt; 20%</p>
<p>[1-1-11] It worked well because I gave clear instructions leading up to the exams. There were almost no problems. A few students were not regularly checking Google Classroom postings, but almost all students had no problems.</p> <p style="text-align: right;">A. E. Communication A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 40% &gt; 40%</p>

## 1-2 期末試験はリアルタイム（オンライン）方式で実施（未修外国語）

<p>[1-2-1] オンラインということで機械翻訳などを利用して極端に成績が良い学生が現れるかと思ったが、ほぼ普通の授業で見たとおりの、それぞれの能力に応じた試験結果となった。ただ、タイピングが遅い学生がおり、解答時間が少なくなったとの意見もあり、そこは改善したい。【その他の変更点】 普段は辞書などの持ち込みを認めないが、オンラインということで監視することが困難であるから、辞書・ノート・教科書を参照可にした。機械翻訳は使ってはいけないということを厳命した。その分、テスト内容は例年よりも難易度を高めた。</p> <p style="text-align: right;">未修外国語 A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 80% &gt; 90%</p>
<p>[1-2-2] Google form で出題し、普段の課題と同じ取り組み方でしたので、特に問題がありませんでした。</p> <p style="text-align: right;">未修外国語 A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 50% &gt; 50%</p>
<p>[1-2-3] 学生さんがほぼ全員時間通りに集まって、時間通りに解答を提出してくれました。それに、解答の完成度から見れば、大部分の学生がよくできましたと思いました。</p> <p style="text-align: right;">未修外国語 A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 60% &gt; 60%</p>
<p>[1-2-4] テストの評価基準を明確にすることで、フェアに成績を付けることができた。【その他の変更点】 ZOOM でテストしたので、期末テストの実施方法は筆記試験から口頭試験形式に変更した点です。</p> <p style="text-align: right;">未修外国語 A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 60% &gt; 40%</p>

<p>[1-2-5] レポートと期末の発表を併用したから (Zoom の録画を使用) <b>【その他の変更点】</b> Beef を利用し、小テストを追加する予定です。</p> <p style="text-align: right;">未修外国語 A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 60% &gt; 60%</p>
<p>[1-2-6] 作文と発表で適切な成績評価ができたと思います。<b>【その他の変更点】</b> ペーパーテストと作文発表。前期では発音中心なのでオンライン授業ではこのような自分で作文した文章を読むという形で実力を測定することがある程度できたと思います。</p> <p style="text-align: right;">未修外国語 A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 50% &gt; 50%</p>
<p>[1-2-7] オンライン試験のリスニング問題はトラブル無かったのは予想外でしたか、うまくいったのは嬉しかったです。音読課題の提出する際に、やはりちょっと容量などの問題がありまして、学生さんに圧縮アプリなどをおすすめしましたら、解決しましたが、提出期限まではギリギリの状態になってしまいました。<b>【その他の変更点】</b> 例年の期末テストと比べて、BEEF の小テストと課題の活動などを活用いたしました。オンライン授業での成績評価するのはとても良い方法だと思います。</p> <p style="text-align: right;">未修外国語 A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 70% &gt; 50%</p>
<p>[1-2-8] AI はリアルタイムでテストを行うことによって、オンラインでありながらも対面に近い緊張感のあるテストを行うことができた。また制限時間内に対して大量の問題を出すことによって、よく勉強している学生と、テスト中に教科書を確認しながらなんとか正解を導き出している学生との点数に差をつけることもできたという点でもうまくいった。A2 は期末試験ではなく、平常授業と同じ小テストを行ったが、テスト自身の難易度は上がってるものの、講義動画内小テストがアップされてから小テスト提出締切までにある程度の幅のある日数をおくことによって、本当に頑張りたい人は早めに動画を見て何度でも気のすむまで聴き取りを行うことができるようにしたことで、天性の才能や運のようなものではなく、かける努力が確実に点数の向上につながるような出題ができた。実際、学生からのアンケートの感想でもテスト自体が「中国語を聞き取る良い練習になりました。」という声があり、テスト自体が習得度の測定だけでなく言語運用能力向上の訓練の場となったという点で、うまくいった。AI, A2 どちらの方法も、その時期の目標に資する適切な試験方法であったと認識している。<b>【その他の変更点】</b> AI の期末テストについては、去年度は授業時間内の指定時間に各自がオンラインでアクセスし、提出するようにしていた。今年は試験の出題・提出方法は同じだが、Zoom で出席をとった上で Zoom で中継したまま一斉に試験開始および答案送信提出を指示し、全員の提出を教員側で確認してから Zoom からの退出を許可した。(理由) 去年 2020 年度の AI はオンライン試験中は Zoom 中継は行っていなかったため、試験提出に遅延があったり、未提出の学生がいた場合、学生が遠隔授業特有の不可避のアクシデントによる不利益を被らないようにすると同時に、真面目に環境を整えて試験を受けている学生と不公平にならないよう対応することに疲弊した。また学生からの試験未受験の申告理由が真実とは思えないようなものもあった場合に教員側では真偽の確かめようがないため、今年は試験の未提出や遅延提出があった場合に、不可避なトラブル等の理由で試験が未提出/遅延提出になっているのか、学生のただの怠慢によるものかどうか、学生が偽ることのできる状況をできる限り排除したいと思ったため、上述のような変更を行った。結果的に今年度の試験は受講生全員が時間</p>

通りに試験を提出でき、去年度のような個別の対応に追われることなく無事に終えることができた。

未修外国語 A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 60% > 30%

[1-2-9] 回答なし

未修外国語 A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 60% > 40%

[1-2-10] Zoom での会話テストも Google Forms に提出する課題も授業時間内にほぼ終了できました。最終成績も例年と大きく違うということはありませんでした。ただ問題の不備を試験時間中に訂正することが難しく (Zoom での会話テストに集中していたため)、その点が今後の課題です。対面時には場所と時間の管理が難しいため実施していなかった会話テストですが、Zoom を使うと少人数グループで実施することができました。対面時には手書きの答案を試験時間内に手渡しで提出としていましたが、オンラインではそれが不可能なので、Google Forms を使ったところ、提出時刻、所要時間を確認することができました。オンラインでは持ち込み不可にすることが不可能なので、調べながら取り組んでもいい課題にしました。対面時のリスニングテストは教室で3回読み上げますが、オンラインでは録音音声 (読み上げ1回、聞き直す回数の制限なし) を使用しました。録音音声は聞きづらいようですが、毎回の学習内容が理解できている学生は期末課題も聞き取れていましたので、大きな問題はなかったと考えています。

未修外国語 B1/B2 自己評価 4/5 期末試験 60% > 60%

[1-2-11] オーラルテストは入室時間を指定したりしてうまくいったが、筆記試験の方は、答案とは異なる間違ったファイルを添付していた学生および通信状況が悪く時間内に答案を提出できなかった (ファイルが全て消えてしまったと言う) 学生が各1名いた。【**その他の変更点**】ビデオ on (顔出し) を条件にしていたのですが、中にはカメラの不具合によりビデオをオンにできない学生がおり、その学生がどのようにテストを受けているか確認できないため、全員同じ条件で試験が受けられるように、教科書および辞書使用可にした。

未修外国語 B1/B2 自己評価 4/5 期末試験 70% > 60%

[1-2-12] オンラインで学生も対応できた

未修外国語 B1/B2 自己評価 4/5 期末試験 60% > 60%

[1-2-13] In an oral exam, students can use prepared answers to help them. This type of exam can only work if students cannot predict the test questions accurately. For written work, it is also possible to use translation software such as Deepl. While time-limited grammar questions can work, free-written work is difficult to assess. 【**その他の変更点**】 I changed the percentage of each part of my test. In written production, the percentage was quite low while the real-time oral part had a higher percentage. In addition, I changed the order of my questions for each student. This may have disadvantaged the students who were more comfortable in writing.

未修外国語 B1/B2 自己評価 4/5 期末試験 60% > 60%

[1-2-14] I could do it at the university with written and listening exercises. 【**その他の変更点**】 As it was conducted at the university and not a report it was a better way

to evaluate the students level after one semester. 未修外国語 B1/B2 自己評価 5/5 期末試験 50% > 40%
[1-2-15] オンラインなので、電子辞書やネット翻訳ソフトの利用の有無は分かりません。そういったツールの利用を前提とした出題しかできないので、かなり制限があったと思います。課題を zoom で公開し、「60 分以内で手書きで回答し、写真撮影して提出する」形式でした。ネット翻訳のツールを使うとしても、一定の習熟度がなければうまくいかないという判断のもとでの実施形式設定でした。 未修外国語 C1/C2 自己評価 3/5 期末試験 50% > 50%
[1-2-16] "Work": Direct conversation / Speaking with students face-to-face; assignment with both testing and open questions/writing paragraph, assignment time limit and implementation easily controlled. "Not work": no or same as for exam conducted in a university classroom. For the exam conducted in a university classroom, there is a time limit problem. So, sometimes there is no enough open space for students speaking skills check. Mostly conducted only in a form of testing or/and writing a paragraph. Online exam gives an opportunity to combine both testing and speaking parts (free conversation, speaking on a topic, answering questions, etc.). That helped much to check students' speaking and pronunciation and to include these points to their final grades. 未修外国語 C1/C2 自己評価 4/5 期末試験 30% > 20%

## 2-1 期末試験は課題提出方式で実施（英語）

[2-1-1] それまでの成績との相関関係が強い。【その他の変更点】はい。オンラインの期末テストを用い、正答率、かかった時間等の重要な統計を分析することができる。 A. E. Literacy A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 30% > 30%
[2-1-2] 記号問題、短い解答の問題をやめました。 A. E. Literacy A1/A2 自己評価 3/5 期末試験 50% > 20%
[2-1-3] 基本的にうまくいきましたが、課題提出方式では成績にあまり差がつかない点は困りました。 A. E. Literacy A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 70% > 50%
[2-1-4] 技術面・公平性の面などを考慮しながら設問形式や問題内容をできるだけ工夫したつもりです（教科書や辞書などを見ながら解答してよい問題やライティング等）。ただ、最近の翻訳アプリなどの向上を考えますと、評価の対象とし得る要素にも制限があり、「うまくいかなかった」とは思いませんが、難しい点が多かったと感じています。 A. E. Literacy A1/A2 自己評価 3/5 期末試験 40% > 40%
[2-1-5] 1Q と 2Q で異なる形式を用いたことで（時間制限のある中での読解力を問う問題と、時間をかけて課題に向き合う問題）総合的な達成度が測ることができた。 A. E. Literacy A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 40% > 50%

<p>[2-1-6] 回答なし</p> <p style="text-align: right;">A. E. Literacy A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 30% &gt; 30%</p>
<p>[2-1-7] 農学部と工学部のクラスを担当していたこともあり、学期末に学生に負荷がかかるような課題（対面で試験、リアルタイムで試験）を課しても、その課題の点数はあまり上がらないことがあるので、私の授業では学期末は課題提出形式で課題（10点満点）を回収しています。どのクラスもほぼ全員が期限内に課題を提出するので、テスト期間中に課す課題量や期限も適切だと思っています。</p> <p style="text-align: right;">A. E. Communication A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 10% &gt; 10%</p>
<p>[2-1-8] 発表動画を YouTube に限定公開として URL を提出させ、原稿も提出させたが、動画投稿に抵抗のある学生がいたと思われる。</p> <p style="text-align: right;">A. E. Communication A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 50% &gt; 30%</p>
<p>[2-1-9] 学生の英語スピーチは多くの場合非常に良く考えられた知的内容のあるものであったと感じた。【<b>その他の変更点</b>】コロナ対策でオンラインでのやり取りを前提とするので個人がビデオで英語のスピーチを録画する方法となった。</p> <p style="text-align: right;">A. E. Communication A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 20% &gt; 20%</p>

## 2-2 期末試験は課題提出方式で実施（未修外国語）

<p>[2-2-1] 試験の実施方法として、「オンラインのリアルタイムでの試験」と「課題提出」で迷ったが、前期の語学の授業では、まずは新しい言語に慣れていく第一歩として、自分で辞書を引いたり、ネットで調べたりといった習慣を身につけてもらいたいという願いから、自分でしっかり調べる時間を取れる「課題試験」を採用した。課題の中には、授業で習ったことを理解していれば直ちに回答できる平易な問題のみならず、自分でそれなりに調べないと正解にたどり着けないやや難しめの問題も入れておいたのだが、実際、生徒の答案の内に自分で調べたであろう痕跡をそれなりに見て取ることができた。よって「課題提出」を採用することでも、「入門」の授業の試験としてまずまずの成果を上げることができたように思われる。</p> <p style="text-align: right;">未修外国語 A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 60% &gt; 60%</p>
<p>[2-2-2] 対面試験と課題試験の両方を実施した結果、出来不出来に差がある学生があり、評価について考えさせられました。オンラインの課題では、昨年度オンラインの検索サイトを利用した回答が多数見られましたので、今年度自分で考える問題を増やしましたが、対面試験と差がある場合があり、さらに、問題の質を検討する必要があるように思いました。【<b>その他の変更点</b>】期末テストの割合を下げ、そのほかの課題提出や授業での取り組みの割合を上げました。様々な角度から取り組みを評価することで、普段の遠隔授業で取り組みも取り入れるようにできると考えました。</p> <p style="text-align: right;">未修外国語 A1/A2 自己評価 3/5 期末試験 70% &gt; 60%</p>
<p>[2-2-3] 期末試験を行いませんでした。オンラインでの試験はやり難く課題提出に変えました。【<b>その他の変更点</b>】例年対面授業の場合は教室で期末試験を行い、又期末試験は総成績の7割以上を占めます。しかし昨年からはオンライン授業に変わることによって期末試験をや</p>



<p>り難しく課題提出に変更しました。それに共になって成績評価も少し変更がありました。</p> <p style="text-align: right;">未修外国語 BI/B2 自己評価 3/5 期末試験 80% &gt; 60%</p>
<p>[2-2-4] 音声書き取り問題の占める割合を多くし、不正対策をしたつもりでしたが、学生側はいろんな対応策があったかもしれません。うまくいったとは自己判断が難しかったです。昨年は zoom リアルタイムで実施しましたが、時間が足りず、結局 15 分延長することになりました。今年は提出期限を 3 日にしました。</p> <p style="text-align: right;">未修外国語 BI/B2 自己評価 3/5 期末試験 70% &gt; 50%</p>
<p>[2-2-5] 確実に期末試験に参加してもらえらという点【<b>その他の変更点</b>】例年なら教室での対面で試験を行っていたが、コロナ禍なのでオンラインに変更</p> <p style="text-align: right;">未修外国語 BI/B2 自己評価 5/5 期末試験 60% &gt; 60%</p>

### 3-1 期末試験は教室で実施（英語）

<p>[3-1-1] 昨年は対面試験ができなかったのが秀や優を絞るのが困難だったが、筆記試験を実施して明確に成績分布が判明したから。</p> <p style="text-align: right;">A. E. Literacy A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 70% &gt; 70%</p>
<p>[3-1-2] 十分なキャパの教室を用意していただき、十分な距離を保って試験を実施できました。試験問題は冊子の形で配布、回収しました。試験の開始前、学生が密集しないように注意を喚起しましたが、全員が従っていたわけではなく、想定していた程度には接触をしていたと思われます。【<b>その他の変更点</b>】遠隔キャンパス(楠キャンパス)の学部を担当したので、これまでと異なり、定期試験を実施しました。成績に閉める割合は 3 割にとどめ、授業の予習に当たる課題、授業の内容を応用する形の作文課題など分散しました。</p> <p style="text-align: right;">A. E. Literacy A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 10% &gt; 30%</p>
<p>[3-1-3] 対面での授業内試験ができたので、パソコンでアクセスできないなどのトラブルが起こらなかった。</p> <p style="text-align: right;">A. E. Literacy A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 70% &gt; 70%</p>
<p>[3-1-4] 昨年度はオンラインのリアルタイムで試験をしましたが、「持ち込み不可」と伝えたととしても、学生が様々なものを参照したり、クラスメート同士連絡を取り合ったりすることを防げないと思ったため、問題の量を多くしたり、内容を難しくしたりしました。そのように予告した上で行いましたが、そういう試験だと学生もフラストレーションがたまるようで、不満を述べる人がいました。それで、今年は対面試験を実施しましたが、上記ような問題がなく、成績評価を行いやすかったです。</p> <p style="text-align: right;">A. E. Literacy A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 50% &gt; 50%</p>
<p>[3-1-5] オンライン授業だったからか、学生の試験のできが、コロナ以前ではよくできていた問題が小テストを実施していないためか、できがわるかった。【<b>その他の変更点</b>】問題の量を少し減らした。第 1 クォータの試験実施時に、最後まで学生が全員残っていたので。</p> <p style="text-align: right;">A. E. Literacy A1/A2 自己評価 3/5 期末試験 60% &gt; 70%</p>

## 3-2 期末試験は教室で実施（未修外国語）

[3-2-1] 対面での試験実施だったので概ねうまくいった。ただ、オンライン受験希望者が数人おり、Zoom を接続しながら、メールで問題と回答をやりとりした。	未修外国語 A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 50% > 50%
[3-2-2] 大学の教室での対面試験だったので、基本的に問題なく実施できた。ただ、2Q では、身近でコロナ陽性者が出た（濃厚接触者ではない）ため念のため自宅待機となった学生やオンライン授業主体で実家に帰省している学生など、対面試験に出席できないケースが出たため、個別に代替手段を取る必要があった（難易度を上げたレポート試験をオンライン上で提出させた）。	未修外国語 A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 50% > 50%
[3-2-3] 学生の勉強した結果をチェックすることが出来たので。	未修外国語 A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 80% > 80%
[3-2-4] どれだけ告知しても期末を教室でするのを忘れていた子が出た。	未修外国語 A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 60% > 60%
[3-2-5] 回答なし	未修外国語 A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 70% > 70%
[3-2-6] 前年のように期末試験まで遠隔で実施してしまうと、遠隔授業での学習内容がきちんと身につけているかどうか確認することが難しいため。	未修外国語 B1/B2 自己評価 5/5 期末試験 60% > 60%
[3-2-7] 例年と変わらない形式で実施できたから。	未修外国語 B1/B2 自己評価 5/5 期末試験 50% > 50%
[3-2-8] 試験問題を事前に印刷するようお願いし、当日の受け取りはとても順調で、大変助かりました。	未修外国語 B1/B2 自己評価 5/5 期末試験 60% > 60%

## 4-1 期末試験は実施しない（英語）

[4-1-1] 期末試験は行わず、授業期間中に複数回の作文課題をおこなって成績評価の対象とした。課題はすべてオンライン提出であり、不正（他人の手助けを借りるなど）の可能性はゼロではないが、今回の授業は全体に学生がみな優秀であったので、信頼した。	A. E. Literacy A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 10% > 10%
[4-1-2] 【その他の変更点】 毎回 BEEF を用いた小テストを行い、期末テストを無しに変更した。【理由】 小テスト受験+期末テスト無しにすることで、毎回学習内容により多くの注意を払って予習・復習に取り組んでもらえるよう、学習効果の促進につながることを期待した。	A. E. Literacy A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 30% > 0%
[4-1-3] 回答なし	A. E. Literacy A1/A2 自己評価 3/5 期末試験 10% > 10%

[4-1-4] 回答なし	A. E. Literacy A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 50% > 50%
[4-1-5] 平常点の一部として授業の初めに教科書の内容についての課題を提出してもらっていたので、毎回、事前学修をしっかりと授業に参加してくれていたのが良かったと思います。 <b>【その他の変更点】</b> 例年の期末テストでは教科書の内容についての理解度や到達度を問う問題も入れていましたが、オンラインでは公平なテストを行うのが難しいと考えたため、リアルタイム授業内でのスピーチ、オーラルテスト、音声提出課題などで評価しました。	A. E. Communication A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 40% > 10%
[4-1-6] Q1 は最終週の 1 日に全グループの発表を実施したため、コメントする時間的余裕もなく、発表を聞いているはずの学生がどの程度きちんと聞いているのか把握できていなかった。その反省を踏まえ、Q2 では 2 週にわたってグループ発表の時間を取り、聞いている学生には他のグループ発表に関する評価レポートを書かせた。Q2 の方が、学生たちの発表内容も充実しており、熱意が感じられたと思う。 <b>【その他の変更点】</b> 例年は教科書の BBC ニュースビデオの聞き取り（穴埋め問題など）を中心とした筆記試験を実施していたので、オンラインでは不正防止対策を講じることができなかつたので、グループ発表に変更した。グループ発表では、教科書で取り上げられている番組に関連した内容の BBC ニュースの動画をネット上で探し、発表の冒頭でそれを再生した後に、ニュースの内容に関してグループで話し合った内容について発表してもらった。教科書以外の生の英語のニュース素材を扱うよう指定したことにより、発表する学生にとって、チャレンジングな取り組みとなり、かつ聞き手にとっても興味深いものになることを狙った。	A. E. Communication A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 50% > 50%
[4-1-7] 期末試験は筆記試験としては実施しなかつたが、リアルタイムの遠隔授業中にプレゼンを実施したのがトラブルもなくスムーズだったため。また、そもそも期末試験を実施せずとも成り立つ科目・授業方式であったため。	A. E. Communication A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 10% > 10%
[4-1-8] <b>【その他の変更点】</b> Projects were conducted in lieu of examinations. Students created videos (A1 - "How to videos"; A2 - Academic Presentation videos). After students watched each others' videos, discussions were held via ZOOM breakout sessions, which were recorded. Videos were worth 30 points, and Discussions were worth 20 points.	A. E. Communication A1/A2 自己評価 -/5 期末試験 30% > 30%
[4-1-9] 回答なし	A. E. Communication A1/A2 自己評価 5/5 期末試験 10% > 10%
[4-1-10] 回答なし	A. E. Communication A1/A2 自己評価 3/5 期末試験 60% > 60%
[4-1-11] 回答なし	A. E. Communication A1/A2 自己評価 4/5 期末試験 40% > 40%
[4-1-12] 回答なし	

A. E. Communication A1/A2 自己評価 -/5 期末試験 0%>0%

4-2 期末試験は実施しない（未修外国語）

[4-2-1] 平常点で成績計算できます

未修外国語 B1/B2 自己評価 5/5 期末試験 10%>10%

[4-2-2] 授業内まとめテストは持ち込み閲覧不可であるが、そここのところのチェックには限度を感じる点。また、時々Beefでの課題提出に失敗する学生もいた。**【その他の変更点】**例年は教室で授業内まとめテストをしていました。

未修外国語 B1/B2 自己評価 3/5 期末試験 70%>70%

5-1 その他の意見・質問（英語）

[5-1-1] 不正防止対応（なりすまし等の確認）に時間がかかる。また、仮に不正があったとしても遠隔なので、まさにその場で行っている時に対応できないと思われる。

[5-1-2] ただの個人的な感想です。対面授業よりも、遠隔授業の方が、学生が作成する英文レポート・プレゼンビデオ・フィードバックの質が高く、個人的には遠隔授業で満足しております。（対面授業の時は、学生が学生生活に忙しく、パソコン操作に慣れるまでにかなりの時間がかかり、提出される英文レポート・プレゼンビデオ・フィードバックの出来が雑であることが多かったですが、今はパソコン慣れした学生から提出される課題の質はコロナ前に比べてかなり高く、感心しております。）

[5-1-3] 再履修の学生は対面の場合に較べても一層授業への取り組みが難しいと思います。

[5-1-4] 平常点が大きな割合を占めるので全体的に差がつきにくく、特に秀と優の学生の選別が非常に難しい。

[5-1-5] 他の学生のレポートのコピペかどうかを判別するソフトがあれば使用したいです。

[5-1-6] 試験や成績評価に限ったことではありませんが、英語の授業での、英語を公用語とする国からの留学生への対応などについて方針等をお示しいただければ有難く存じます。（S評価をクラスの10%以内に留めるという申し合わせによって、柔軟な対応をとることが難しくなっていると感じます）

[5-1-7] プレゼンテーション課題を取り入れたかったのですが、叶いませんでした。他の教員の皆さんの課題の出し方や、授業中のアクティビティなどをご教示頂ける機会があれば大変助かります。

[5-1-8] 機械翻訳の精度が上がりすぎて、平常の課題を自力でやらない学生が増えていること。

[5-1-9] 対面で試験ができない場合、医学部、海洋政策学部、の追試験の取り扱いがどうなるのかを指示していただけると助かります。オンラインであっても定期試験の扱いで教務に届けばよいのか、その場合、辞書や参考資料を参照することを止めることは事実上無理なので、すべて参照してよい、ということになるのか、実施上の基準がわかる資料があればご教示

<p>くださると助かります。</p>
<p>[5-1-10] 成績の割合について縛りがあるため、試験の問題を難しくつくと、オンライン授業の欠点で学生の理解度が低くて、学部によっては成績が全体に芳しくない結果になったりする。しかし、問題を簡単にしすぎると、成績の割合との兼ね合いで、困る。課題提出の頻度も多くすると、教員の負担が大きくなる。授業の資料の準備だけでも遠隔授業は大変で、資料を詳細に作りすぎているから学生が安心して勉強していないのかもしれないので、資料は最低限にしようかと思っています。</p>
<p>[5-1-11] Q3, Q4 でも、授業期間の最後の 2 週を、期末試験に充てることができるようにしてほしいです。</p>
<p>[5-1-12] 不正が行われる可能性をできるだけ低くするために行ったのは、次の項目です。          ①受験時間に制限を設ける ②問題文は直接打ち込まずに画像ファイルで挿入し、自動翻訳機能が働かないようにする。③出題形式を変えたり、回が進むごとに難易度を上げる。◀学生に伝えています。          今週、他大学で Moodle の講習会があり、「小テスト」の不正防止が内容に含まれていたため、勉強したいと思っています。</p>
<p>[5-1-13] I have told students my online grading policy. It's posted on my syllabus, which can be found on the Classroom page on Google classroom. I also discuss it on the Week 1 video. I tell students that because we are online and On Demand that failure to submit that week's assignment on time counts as a zero and an absence. (I almost never get late assignments. This same policy is at my other university.) Kobe students are very good at following instructions. Because these are skill based classes, I tell students that if they follow the video instructions, they should be able to complete the assignments in 90 minutes, just like a regular class. It seems to have worked well.</p>
<p>[5-1-14] I found most of the students were able to achieve high grades in the online tests. Because of this more emphasis was put on their writing assignment grades. This allowed for a wider spread of grades and a more accurate assessment of their writing abilities.</p>

## 5-2 その他の意見・質問（未修外国語）

<p>[5-2-1] Beef は中国語の簡体字を認めない、学生達のレポートを修正したら、上手く表示されませんでした。非常に困ります。</p>
<p>[5-2-2] たくさんサポートを頂きまして本当にありがとうございます。</p>
<p>[5-2-3] 2020 年度の初めに Zoom や BEEF の学習会、練習会を複数回実施していただけたことで、ここまで大きな混乱なく過ごすことができています。開催して下さった先生方に心より感謝申し上げます。</p>

[5-2-4] オンライン授業の場合期末課題は総成績に占める割合が大きく、しかし学生の中には自ら課題を解くのではなく人の解答を写して提出する人がいます（一部の学生の解答を見て9割くらいは誰かの解答に似ている、しかし本人は認めない）。もう少し期末課題が総成績に占める割合が下がった方がいいかもしれません。

[5-2-5] 特にありませんが、もっといい方法があれば、参考にしたいです。

[5-2-6] 学生の集中力は、徐々に下がってきていると感じます。手ごたえが感じにくいことに悩んでいます。

## 補遺：アンケート質問文一覧

### 日本語版

【設問 1】氏名をご記入ください。

【設問 2】担当言語をご選択ください。

【設問 3】今年度前期に担当した科目名をご選択ください。(複数ある場合は、アンケートの対象とする主な科目を一つ選び、以下の項目においてはその科目についてお答えください。)

【設問 4】担当授業における定期期末試験の実施方法についてお答えください。

【設問 5】設問 4 でお答えいただいた期末試験の実施方法はうまくいったでしょうか。5 段階で評価してください。

【設問 6】設問 5 でそのように回答された理由についてお尋ねします。「うまくいった」または「うまくいかなかった」と思われるのはどのような点や試みだったでしょうか。

【設問 7】設問 6 で記述いただいた内容以外にも、例年の期末テストの実施方法と比べて、変更した点はあるでしょうか。もしあれば、どのように変更したのか、その理由とあわせて記述してください。

【設問 8】成績評価に占める期末試験の割合についてお尋ねします。コロナ対応の必要がない例年通りの授業であった場合、期末試験の得点は成績評価全体の約何割を占めていますか？

【設問 9】今年度前期 (1Q/2Q) の成績評価において、期末試験の得点は全体の約何割を占めていますか？

【設問 10】遠隔授業下での試験の実施や成績評価の方法について、何か困っておられる点や部会等へのご要望・ご質問等がございましたらお書きください。

### 英語版

1. Please fill in your name.

2. Please select the language you are responsible for.

3. Please select the name of the course you taught in the first semester of this academic year. (If there is more than one, please select one main subject for the questionnaire and answer for that subject in the following section.)

4. Please indicate how you conduct regular final examinations in your classes.

5. Please rate on a scale of 1 to 5 how well the final exam was conducted.

6. Please tell us the reason for your answer in question 5. What aspects or attempts seemed to "work" or "not work"?

7. In addition to what you described in question 6, have you made any other changes to the way the final exam is administered compared to previous years? If so, please explain how and why you changed it.

8. If you have a class as usual without the need for corona support, what percentage of the total grade do the final exams account for?

9. In the grading of the first semester of this academic year (1Q/2Q), what

percentage of the total score was accounted for by the final exam?

10. Do you have any problems, requests or questions for the subcommittee, etc., regarding the implementation of examinations and grading methods in remote classes?